

第 65 回 国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

大妻中野中学校 3 年

荒井 祐美子

課題①

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

副題

なし

ひめゆり資料館の薄暗い展示室で、私は胸に刺さるようなやるせなさを感じていた。そこに並ぶのは、沖縄戦で命を落とした女学生たちの名前の数々。ひとりひとりの写真と共に、生年月日と命日、そして死因が記されていた。修学旅行で初めて訪れた沖縄で、私は「平和」という言葉の重みを肌で感じるようになった。

それまで、私にとって戦争は、どこか遠い国や教科書の中の過去の出来事に過ぎなかった。歴史の授業で習う年表や出来事は、単なる頭に入るだけの情報で、そこで生きた人々の感情や苦しみを現実味をもって想像することは出来なかった。テレビやニュースで今も世界で起きている紛争を目にしても、「悲惨だな」と思いながらも自分とは無関係なことだと、どこか他人事として線を引いていた。

しかし、ひめゆり資料館で私はその無関心さを深く恥じた。ドーム状の部屋にある大きなスクリーンには、沖縄戦を体験した生存者のひめゆり隊の女性の声が静かに流れていた。彼女が話す女子生徒たちは、私たちと同じように笑い、学び、未来を夢見ていた少女たちの姿そのものだった。教科書の文学列だった戦争が、生身の人間が語る歴史として私の胸を突き刺した。

平和とは、ただ戦争がない状態を指すのではないと思う。それは、私たちが過去の悲劇から目を背けず、その痛みを胸に刻み、未来への教訓として、受け継いでいく「責任」と「記憶」の上に成り立つものだと考える。彼女たちの死が二度と同じ過ちが繰り返されないための礎となるには、私たちができることはなんだろうか。

まず、私たち一人ひとりができることは、身近な人間関係から平和を築くことだ。異なる意見を持つ相手を排除したり否定するのではなく、対話を通じて理解しようと努めること。これは、国や民族といった大

きな単位での対立を避けるための一歩だ。多様な価値観を認め合うことから、真の平和が生まれると考えた。

さらに、国家レベルで平和を実現するには、貧困や経済格差を解消するための国際協力が不可欠だ。これらの問題は紛争の発端となるため、一国だけではなく、複数の国が協力して、途上国へ経済支援や技術供力が重要である。

そして、個人と国家の取り組みを繋ぐためにも、情報を鵜呑みにせず自分の頭で考える力を養うことだ。平和を脅かす大きな要因の一つに、扇動的な情報や先入観、偏見がある。何が事実かを見極め多角的に物事捉えることで、不必要な争いを避けることができる。私たちが学んだ歴史もただ暗記するのではなく、なぜ起こったのか、どのようにするのが最善だったのかを考察するべきだ。

最後に、その学びや考えを伝えることだ。平和を築くためには、一人一人の意識改革が必須だからだ。私たちは学んだ悲しみを、伝えていく責任がある。そうすることで次世代に「戦争の記憶」を継承していくことができる。

沖縄での経験は、私に大きな気づきを与えてくれた。いろいろな場所で失われた命の上に、私たちの平和があることを、決して忘れてはならない。平和は、過去と向き合い、今を生きる私たちが未来のために責任を持って行動することで初めて、守り続けられるものなのだ。